

平和文化



2012.1 No.179

公益財団法人広島平和文化センター
Hiroshima Peace Culture Foundation

〒730-0811 広島市中区中島町1番2号
TEL (082) 241-5246 (代表) FAX (082) 542-7941 E-mail: p-soumu@pcf.city.hiroshima.jp
平成24年(2012年)1月/年3回発行 [URL]http://www.pcf.city.hiroshima.jp/hpcf/

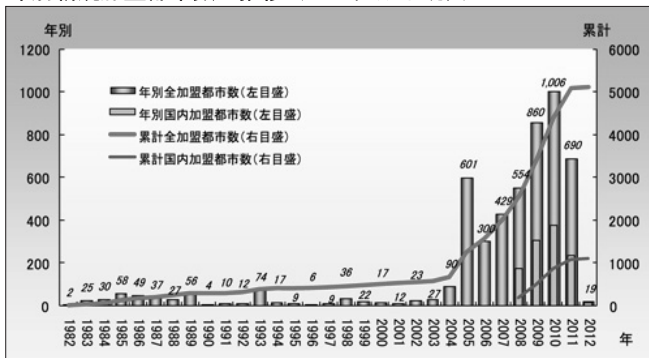
平和市長会議加盟都市が5000を超えました

一九八二年(昭和五十七年)の設立以来、世界の都市との連帯のもと、核兵器廃絶をはじめとする世界平和構築に向けた様々な活動を展開している平和市長会議の加盟都市が、二〇一一年(平成二十三年)九月十六日に五〇〇〇都市を超え、本年一月一日現在では五一一都市になっています。

四〇〇〇都市の突破が二〇一〇年(平成二十二年)七月一日であったことから、約一年二カ月の間に一〇〇〇都市が増加したことになります。世界各地で核兵器廃絶に向けた連帯の輪が広がっています。

今後とも、これまで培ってきた国内外の都市間の連携や市民団体等とのネットワークを活用しながら、加盟促進に取り組みます。

年別新規加盟都市数の推移 (2012年1月1日現在)



加盟都市数 (2012年1月1日現在)

地域名	加盟都市数
アジア	1,535 都市 (30 国・地域)
オセアニア	127 都市 (9 国・地域)
アフリカ	329 都市 (42 国・地域)
ヨーロッパ	2,327 都市 (45 国)
北アメリカ	288 都市 (3 国・地域)
ラテンアメリカ・カリブ海地域	505 都市 (24 国・地域)
合計	5,111 都市 (153 国・地域)

地域：台湾、パレスチナ、北キプロス(アジア)、北マリアナ諸島、仏領ポリネシア(オセアニア)、ソマリランド(アフリカ)、グリーンランド(北アメリカ)、プエルトリコ(ラテンアメリカ・カリブ海地域)

(平和連帯推進課)

平和市長会議の加盟都市が、目標としてきた五〇〇〇都市を突破したことを大変嬉しく思います。

これまで世界の各地で積極的に加盟促進に取り組んでいた、各国政府や役員都市をはじめとする平和市長会議加盟都市の関係者、国内外のNGOや市民団体の皆様、熱心な取組の成果であり、心から感謝申し上げます。

これにより、二〇二〇年までの核兵器廃絶を目指す世界での取組が一層進むのではないかと期待しています。

平和市長 松井一實

今後は、「二〇二〇ビジョン」を実現する上で極めて重要な役割を果たす「核兵器禁止条約」の早期実現に向けた取組を推進していくため、引き続き加盟促進に努めるとともに、平和市長会議の活動のより充実・強化に向け、役員都市と十分に議論し具体的な措置を講じていきたいと考えております。

平成二十三年(二〇一一年)九月十六日

加盟都市五〇〇〇達成に関する市長(平和市長会議会長)のコメント

目次

- 平和市長会議加盟都市が5000を超えました ①
- 国際平和シンポジウム「核兵器廃絶への道」/ヒロシマ・ピースフォーラム ②
- 世界各国の若手外交官へ「ヒロシマの心」を伝える/「ピースナイター2011」の開催 ③
- 被爆66周年平和記念式典/第9回長崎原爆犠牲者慰霊の会/ひろしま子ども平和会議を開催 ④
- 被爆体験講話会を開催/「原爆の絵」が完成 ⑤
- 国内原爆展を開催/2つの資料展を開催/平和への思い育む夏のキャンプ ⑥
- 中・高校生ピースクラブ/平和学習セットを新規貸出/ピースボランティア新規登録36名活動開始 ⑦
- 英語で伝えようヒロシマセミナー/ウェブ会議システムを利用した被爆体験証言/被爆体験の継承に御協力を ⑧
- 「助けて！一原爆被災直後の救援救護」/「宣伝ビラー日本国民に告ぐ」 ⑨
- 被爆体験記の執筆をお手伝いしています/証言ビデオ収録を開始/被爆体験記朗読会 ⑩
- 姉妹・友好都市の日一市民が海外文化を堪能 ⑪
- 留学生生活支援セミナー 防災センター訪問/ひろしま奨学金決定書交付式 ⑫
- 第2回 留学生と市民とのふれあいサマーコンサート/東日本大震災への募金について ⑬
- 留学生による平和フォーラム「恒久平和を目指して」 ⑭
- 「平和について思う」「老馬の智を忘れまい」 ⑮
- 「ヒロシマの心」を発信する人々「広島市観光ボランティアガイド協会」/元広島平和記念資料館長 高橋昭博さんを偲ぶ ⑯

インターネットでは、本財団ホームページ(上記URL)から、カラー写真掲載のウェブ版機関誌をご覧になれます。

国際平和シンポジウム 核兵器廃絶への道

いま、市民社会から 何を問いかけるか

米国オバマ大統領によるプラハでの演説、米露による新START（新戦略兵器削減条約）の締結NPTR再検討会議での最終文書の採択など核兵器廃絶に向けた気運が高まる中、その流れを加速させるため国際社会が取るべき方策などについて議論し、国際世論を一層喚起するため、七月三十一日（日）午後、広島国際会議場で、国際平和シンポジウム「核兵器廃絶への道」が、市民社会から何を問いかけるか」を開催しました。（主催―広島市、本財団、朝日新聞社、後援―長崎市、（公財）長崎平和

【プログラム】
【オープニング】 オープニング演奏／BUNKEN(ギター) 特別ゲストスピーチ／オノ・ヨーコ
【特別企画／被爆体験を語り継ぐ】 被爆証言サイト「広島・長崎の記憶」（朝日新聞社制作）の紹介 被爆証言の朗読／ひろしま音読の会
【パネル討論】 〈パネリスト〉ジョージ・パークピッチ・カーネギー国際平和財団副理事長（米国）／ティルマン・ラフ・核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）代表（豪州）／水本和実・広島市立大学広島平和研究所副所長（日本）／目加田説子・中央大学総合政策学部教授（日本） 〈コーディネーター〉三浦俊章・朝日新聞論説委員

推進協会、広島ホームテレビ、長崎文化放送）

平成七年度に始まったこのシンポジウムは、今回で十七回目（うち本財団が主催者として加わったのは十三回）となります。

特別ゲストスピーチ

平和に貢献した現代芸術家に与えられる第八回ヒロシマ賞を受賞したオノ・ヨーコさんが、「ノーモア・ヒロシマのメッセージは、犠牲者だったことを覚えておいてくれというのではなく、あなたたちをノーモア・ヒロシマにしてあげたいという事だ」と語り、「核兵器のない世界に向けみんなが自分のできる小さな良いことをしていけば、世界は平和になる」と力強く呼び掛けました。

特別企画／被爆体験を語り継ぐ

朝日新聞社制作の被爆証言サイト「広島・長崎の記憶」の紹介の後、サイトから澤田一瑩さんと前田サトミさんの証言をひろしま音読の会の森岡三恵さん、宮川恵子さんが朗読し、澤田さんと前田さんが壇上から平和の大切さを訴えました。

パネル討論

各パネリストが専門分野についての報告を行った後、コーディネーターの三浦俊章氏から、福島原



討論の様子

発での事故が何を意味するのか、今、国際社会での軍縮の流れがどうなっているのか、市民社会として我々に何ができるのか、という三つの討論の指針が示され、パネリストから様々な提案や意見が出されました。水本和実―核の軍事利用と平和利用は表裏一体であり、また、双方が非常に高い危険性を持っているということ、我々は福島の問題から学び、きちんと伝えなければなりません。ジョージ・パークピッチ―オバマ大統領はプラハ演説の中で核のない世界を標榜し、リーダーシップを示そうとしてきましたが、多くの抵抗があります。市民社会としては、オバマ大統領のような人と協力してくれる他国のリーダーシップが必要です。ティルマン・ラフ―人道的な側面から捉えた核兵器の問題について

理解を広め、市民社会が各国政府に対して核兵器禁止条約の交渉を始めるよう強力に働き掛けていくことが必要です。目加田説子―一人では小さな力かもしれませんが、みんなが同じ思いを持って行動することで社会が大きく変わります。今年はいい意味で核軍縮に向けた原点であるというメッセージをそれぞれが考え、是非広島から世界に発信していただきたいと思います。

ヒロシマ・ピースフォーラム

本財団は広島市と共催で、市民が「平和の原点」としての「ヒロシマ」を見つめ直し、原爆や平和について考え、どのように行動していけばよいかを探索する機会として、平成十四年度から「ヒロシ



第1回ピースフォーラム グループ討議

マ・ピースフォーラム」を開催しています。本年度も五月から七月までの隔週土曜日に計六回開催し、十代から七十代までの九十四名が参加しました。

昨年度に続き、広島市立大学における、学外の専門家から被爆体験の継承や平和の実践活動を学ぶ「広島からの平和学―実践の方法」と連携して開催し、相互に補充することに。また、グループ討議の結果をシンポジウム形式で発表するなど活発な意見交換を行いました。

参加者のアンケートでは、「平和に関する各分野の講師の話をお聴きし、貴重な学習ができた」、「幅広い年齢層の方が参加しており、多様な意見を交換することができ、参考になった」などの感想が寄せられました。フォーラムの内容は左の一覧表のとおりです。

（平和連帯推進課）



原爆ドームを訪れた参加者たち

世界各国の若手外交官へ「ヒロシマの心」を伝える

各国政府の軍縮専門家の育成を目的とする国連軍縮フェローシップ計画の参加者（二十五カ国）一行が九月二十三日（金）から九月二十五日（日）まで広島市を訪れ、視察やセミナーを通して被爆の実相や「ヒロシマの心」について学びました。

同計画は国連が一九七九年から実施している研修事業で、広島市には一九八三年から毎年訪れており、これまでに約七百五十人の参

加者が来広しています。

二十三日（金）夕方、広島に到着した一行は歓迎レセプションに出席し、松井一實広島市長をはじめ、被爆証言者など地元参加者と交流しました。

翌日、一行は原爆ドームや原爆の子の像の見学、原爆死没者慰霊碑への献花を行うとともに、広島平和記念資料館、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館を見学しました。午後からは、ステイブ・リン・リーパー本財団理事長による平和市長会議についての説明、映画『ヒロシマ・母たちの祈り』の鑑賞、外務省から「非核特使」の委嘱を受けた松島圭次郎氏の被爆体験の聴講など充実した広島での研修プログラムを体験しました。

参加者からは、「被爆者の立場で原爆による悲劇を詳細に伝えてくれる、非常によくまとめられたプログラムだ。」「平和市長会議は世界平和を願う全人類が支持しなければならない重要なイニシアチフである。」「私は自国の政府にこの経験を伝え、将来核兵器廃絶に向け、より一層大きな役割を果たしたい。」等の声が寄せられました。

（平和連帯推進課）

「ピースナイター」二回りの開催

八月五日（金）、広島東洋カープ応援の場を活用して、市民等の参加により核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けたメッセージを発信するイベント「ピースナイター二回」をMAZDA Zoom Zoomスタジアム広島（広島市民球場）で開催しました。

この事業は、スポーツを通して平和に貢献する取組として平成二十一年度に企画立案され、カープの試合を見に来られた観客の方々に「平和について考えるきっかけ」としていただく事業です。

具体的な活動としては、

- ① 試合開始前とイニングの間に、大型ビジョンで松井市長や湯崎県知事等の平和を願うビデオメッセージを放映しました。
- ② 試合中は、カープの監督、コーチ、選手がユニフォームにピースワッペンを着けてプレーし、平和及び核兵器廃絶をアピールしました。
- ③ 五回裏終了時、原爆

ヒロシマ・ピースフォーラム

回	日時・場所	内容	講師
1	平成23年5月7日(土) 13:00~17:00 広島平和記念資料館 地下1階 会議室(1)	2020年までの核兵器廃絶を目指してー2020 ビジョンキャンペーンの展開ー ヒロシマを学ぶ意識 グループ討議 (課題) 今回のピースフォーラムで学びたいこと、及び、今の世界で平和の課題だと考えること	(公財)広島平和文化センター 理事長 スティーブン・リーパー 広島平和研究所 副所長 水本 和美
2	平成23年5月21日(土) 13:00~17:00 広島平和記念資料館 地下1階 会議室(1)	被爆体験証言 文学に描かれた8月6日 グループ討議 (課題) 今の世界で平和の課題だと考えること	(公財)広島平和文化センター 被爆体験証言者 寺本 貴司 広島大学 名誉教授 岩崎 文人 (参加者間でのグループ討議)
3	平成23年6月4日(土) 13:00~17:00 広島平和記念資料館 地下1階 会議室(1)、 メモリアルホール	原田東峯の思想「生命と畏敬」と平和活動 原爆放射線の人体影響の概要とそのメカニズム	医療ジャーナリスト 和田 努 広島大学原爆放射線医学研究所 所長 神谷 研二
4	平成23年6月18日(土) 13:00~17:00 袋町小学校平和資料館、 広島平和記念資料館 地下1階 会議室(1)	被爆建物が語る被爆の実相と都市の歩み、そして未来 ヒロシマの見え方が変わった瞬間	地域計画工房 1級建築士 山下 和也 アニメーション作家 前田 稔 イラストレーター まえだ なおこ
5	平成23年7月2日(土) 13:00~17:00 広島平和記念資料館 地下1階 会議室(1)	NGOの人道支援とそれを支えるシステム 「平和活動」について～広島人として～ グループ討議 (課題1) ヒロシマ・ピースフォーラム全体を通して、新たに教えられ、気づき、認識を新たにしたこと (課題2) 平和な世界を創造するために、私たちに何ができるかを整理してみよう。 ①広島市の被爆体験を土台に考えられること ②今の世界の現状を見て必要だと考えられること	特定非営利活動法人 ピースウィンス・ジャパン 代表理事 大西 健丞 ひろしまジーン大学 学長 平尾 順平 (参加者間でのグループ討議)
6	平成23年7月16日(土) 13:00~17:00 広島平和記念資料館 地下1階 会議室(1)	被爆体験と世界の平和はどう結びつのか？ グループ討議 第5回（7月2日）のグループ討議（続き）及びまとめ、発表・意見交換	広島平和研究所 副所長 水本 和美

プロ野球の試合に合わせた平和のアピール活動を行うのは今年で四回目となり、当日が「ピースナイター」と知っている市民も多く、五回裏のアピール活動には、約三万二千人のほとんどの観客の協力を得ることができました。

（平和連帯推進課）



ピースポスターを用いた平和のアピール活動

被爆者の体験や 平和への思いを伝える 被爆六十六周年 平和記念式典

被爆六十六年目の八月六日（土）、広島市の平和記念公園で、市主催の「広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式」（平和記念式典）が行われ、遺族ら約五万人が参列して犠牲者の冥福と恒久平和を祈りました。

式典は午前八時に始まり、最初に松井一實・広島市長と遺族代表二人が、この一年間に亡くなったことが確認された五千七百八十五人の氏名が記帳された三冊の原爆

死没者名簿を、原爆死没者慰霊碑の中の奉安箱に奉納しました。これで名簿登録者総数は二十七万五千二百三十人、名簿総数は百冊となりました。また、新たに一名の氏名が記帳されて名簿登録者総数が九名となった、長崎原爆死没者名簿（広島奉納希望者）一冊を奉納しました。

続いて木島丘・広島市議会議長の式辞、各代表による献花の後、原爆が投下された八時十五分に、遺族代表の中根しのぶさんとごも代表の田中翔太君が平和の鐘をつき、参列者全員が一分間の黙祷を捧げました。

この後、松井市長が、初めて被爆者の体験談を盛り込んだ「平和

宣言」を行い、「今こそ私たちが、全ての被爆者からその体験や平和への思いをしつかり学び、次世代に、そして世界に伝えていかなければなりません」と力強く訴えました。また、東日本大震災により亡くなられた方々に哀悼の意を表すとともに、福島第一原子力発電所の放射能漏れ事故を受けて、国にエネルギー政策の見直しを求めました。

平和宣言の後、ごも代表の福原真拓君と藤田菜乃歌さんが、「今を生きる人間として、夢と希望があふれる未来をつくるために、行動していくことを誓います」と、「平和への誓い」を読み上げました。

第九回長崎原爆犠牲者慰霊の会 若い世代とつむぎ、 核兵器廃絶への誓いを新たに

本財団は平成十五年度から、長崎に原爆が落とされた八月九日に、同じ被爆地である広島において長崎の原爆犠牲者に哀悼の意を表し、平和への誓いを新たにするため、「長崎原爆犠牲者慰霊の会」を開催しています。

今年度、広島平和記念資料館メモリアルホールで開催した慰霊の会には、約百五十人が参加し、

長崎平和祈念式典のテレビ中継を通して、十一時二分の原爆投下時刻に黙祷を捧げたほか、長崎の被爆体験証言DVD（証言者・吉田勝二氏）を視聴しました。

今回は、初めて、市民団体「広島と長崎をつなげるプロジェクト」の協力により、核兵器廃絶を目指す広島の中・高校生でつくる団体「中高生ノーニュークネットワーク広島」及び、伴南小学校児童会による発表など、若い世代による企画が盛り込まれたほか、最後に広島県原爆被



伴南小学校児童会による発表

害者団体協議会の坪井直理理事長から「広島市の被爆者の言葉」としてご挨拶をいただきました。（平和連帯推進課）

ひろしま子ども 平和議会を開催

全文は、広島市ホームページの「原爆・平和」↓「平和宣言・平和への誓い・平和に関する要請等」から、また、「平和宣言」は、広島平和記念資料館ウェブサイトの「平和宣言」からも閲覧できます。（総務課）

平成二十三年八月六日（土）、広島国際会議場において、「ひろしま子ども平和議会」が広島に集う子どもたちからのメッセージとして開催しました。

ひろしま子ども平和議会は、八月六日の平和記念日に、平和記念式典への参列などのために広島を訪れる子どもたちと広島の子もたちが、平和への思いを言葉や音楽など様々な形で発表するイベントで、全国から参加した十二の団体の子どもたちが平和のメッセージを発表しました。

【参加団体：発表順】広島市立安佐北中学校、茨城県東海村平和大使、神奈川県茅ヶ崎市ピーストレイン、広島市立長束中学校生徒会執行部、東広島市立黒瀬中学校放送部・英語部、京都府立命館宇治中学校チームアオギリ、広島市立

牛田中学校而GAP2011、広島大学附属東雲中学校生徒会総務、神奈川県藤沢市広島派遣団、広島市立広島商業高等学校市商ピースチーム、広島市立大手町商業高等学校平和の誓い胸に焚き、広島市立基町高等学校普通科創造表現コース・美術部

発表の後、全ての参加団体に「アオギリ賞」「キョウチクトウ賞」「折り鶴賞」の各賞を記念の楯とともに贈呈し、発表を称えました。この記念の楯は、広島市立基町高等学校の生徒の皆さんが、特別にデザインし、制作してくれたものです。

最後に、平和を願い会場が一体となって「アオギリのうた」を歌って終了しました。（平和連帯推進課）



平和のメッセージ発表の様子

被爆体験講話会を開催 被爆の実相を 多くの方に

本財団は今年度も、平和記念公園を訪れる人々が事前に申し込むことなく被爆体験を聴くことができる被爆体験講話会を開催しました。

八月五日（金）から七日（日）、十二日（金）・十三日（土）、十七日（金）・十八日（土）の七日間、定時で全十五回の講話会（うち四回は英語）と原爆に関するアニメーションの上映を行いました。

期間中、小さな子どもから戦争を体験した世代の人まで、延べ千三百四十人の来場者がありました。そのほとんどが広島県外からの来館者で、放射線の被害について高い関心を持っており、被爆者の語る話に熱心に耳を傾けていました。アンケートでは「平和の尊さ、核



被爆の実相を語る被爆体験証言者

の恐ろしさについて考え直すことができた」「平和を伝えることは私たちの役割」「家族や周りの人に伝えていこうと思う」などの声が寄せられました。

（平和記念資料館啓発担当）

「原爆の絵」が完成 被爆体験を 絵に描く

本財団は、広島市立基町高等学校普通科創造表現コースの協力を得て、平成十九年度から、本財団被爆体験証言者とボランティアの生徒が共同し、証言者の記憶に残る光景を描く「原爆の絵」の制作に取り組んでいます。

平成二十二年度から五人の証言者と十一人の生徒が五グループに分かれて制作し、完成した十一本の絵画が本財団に寄贈されました。

七月四日（月）に、基町高等学校展示ギャラリーで行われた完成披露会には、新井俊一郎さん、笠岡貞江さん、北川建次さん、國重昌弘さん、寺本貴司さんの五人の被爆体験証言者と、創造表現コースの生徒十一人が出席しました。

制作した生徒からは、「原爆がどれほど恐ろしく、悲しいものであるかということを変更して感じさ



■題名：山陽道・松並木の下で出会った幽鬼の群…これが人間なのか！
■制作者：西家 奈津（基町高等学校普通科創造表現コース2年）
新井 俊一郎（被爆体験証言者）



■題名：変わり果てた広島
の繁華街、新天地
■制作者：山中 亜美（基町高等学校普通科創造表現コース2年）
北川 建次（被爆体験証言者）



■題名：被爆当日、初めて見た被爆者
■制作者：向田 紗希（基町高等学校普通科創造表現コース3年）
笠岡 貞江（被爆体験証言者）



■題名：叫び、苦痛、そして怒り
■制作者：野邑 遥香（基町高等学校普通科創造表現コース3年）
國重 昌弘（被爆体験証言者）



■題名：黒い雨の中
■制作者：大中 もも（基町高等学校普通科創造表現コース2年）
寺本 貴司（被爆体験証言者）

国内原爆展 を開催

本財団では、原爆被害の実相を伝え、核兵器廃絶への機運を高めるため、平成八年度から国内主要都市で原爆展を開催しています。

本年度は、三都市で開催しました。
【津市】

ヒロシマ原爆展と第二十四回
津平和のための戦争展

日時：七月二十七日（水）

三十一日（日）（五日間）

場所：津リージョンプラザ

【堺市】

ヒロシマ原爆展

日時：八月四日（木）

十日（水）（六日間）

場所：堺市教育文化センター

【相模原市】

ヒロシマ原爆展

日時：八月二十五日（木）

三十一日（水）（六日間）

場所：相模原市立博物館

会場では、被爆の実相や核兵器の現状を伝える写真パネル・被爆資料の展示、記録映像等の上映のほか、市民が描いた原爆の絵の展示等を行いました。

津市では被爆体験証言者の池田



堺市での原爆展

種子さん、堺市では川本省三さん、相模原市では松本都美子さんが証言を行いました。また、津市、堺市では、追悼平和祈念館の朗読ボランティアによる被爆体験記朗読会もあわせて開催しました。

三都市の開催で、約八千八百名が来場しました。来場者からは「放射線の恐ろしさをより具体的に知ることができた。二度と起こってはならないことだと感じた」「核の恐ろしさを後世に伝え、原子力発電所を含め核のない世界が実現することを希望する」など、福島第一原子力発電所の事故を含めた感想が多く寄せられました。

展示会場や被爆体験証言には、多くの親子連れが訪れ、写真や絵を見ながら原爆や平和について話している姿がみられました。

（平和記念資料館啓発担当）

二つの資料展 を開催

広島平和記念資料館で、二〇一一年、没後五十年を迎えるマルセル・ジュノー氏に関する資料展と、放射線に関するミニ資料展を開催。

資料展『ヒロシマを救え』没後五十年 マルセル・ジュノー 救援の記録と語り継がれる貢献は、広島県医師会を主催で、六月十日（金）から七月十一日（月）まで、資料館東館地下一階ホワイエで開催しました。被爆後の広島に多量の医薬品を届け、多くの被爆者を救ったヒロシマの恩人・ジュノー氏の業績とその後の顕彰活動について、

ジュノー氏に関する資料展のタイトル・パネル

また、同じ会場で、八月二十九日（月）からはミニ資料展「放射線」について「放射線の種類や性質などの基礎的なことについて、子どもたちにも分かりやすくイラストを交えて七枚のパネルで解説しています。資料館のホームページでも展示内容をご覧いただけます。

（平和記念資料館啓発担当）

平和への思い育む 夏のキャンプ

本財団では三滝少年自然の家と似島臨海少年自然の家との共催で小学四年生から中学三年生までを対象に、「こども平和キャンプ」を開催しました。八月二日から四日にかけて行われた今年度のキャンプには、小学生四十五名、中学生六名の参加がありました。

ヒロシマピースボランティアの案内で平和記念公園内の碑めぐりをし、被爆の実相や原爆の怖さなどについて学んだほか、戦時中の食事体験として折免滋君の弁当（再現したもの）を食べました。また、被爆体験証言を聞き、広島平和記念資料館をボランティアとともに見学をしました。

特に参加者に好評だったのが、被爆ピアノコンサート、海水プール、バウムクーヘン作りでした。被爆から六十六年を経た現在でも綺麗な音色を響かせるピアノに、感動を覚えた参加者が数多くいました。また、友達と協力しながら丹念に焼き上げたバウムクーヘンのおいしさとともに、団結して作る喜びを味わいました。なぜ似島がバウムクーヘン発祥の地となったか、その歴史についても学びました。

参加者にとって夏の思い出のページになるとともに、戦争と平和を考える良い機会になりました。また、キャンプ終了後、二十四人が、平和への気持ちを胸に平和記念式典に参列しました。

（平和記念資料館啓発担当）



バウムクーヘン作りをする参加者



長崎市で開催された「青少年ピースフォーラム」の交流会で「サダコと折り鶴」について説明するピースクラブ

ヒロシマの心を伝えよう 中・高校生 ピースクラブ

平成十四年度から広島市と本財団は、平和の推進に自ら取り組む人材育成を図るため、「中・高校生ピースクラブ」を開催しています。今年度は六月から八月にかけて六回にわたり開催し、三十一人が参加しました。広島平和記念資料館の見学、被爆体験講話などの活動を通して、原爆被害の実相や、被爆による白血病で亡くなった佐々木禎子さんの一生について学ぶとともに、リーダー本財団理事長から核兵器をめぐる世界の状況について

聞きました。

また、八月六日に「サダコと折り鶴ポスター展」を開催するため、展示解説の準備をしました。ポスター展では、英語での説明に挑戦したメンバーもおり、国内外の多くの人に被爆の実相と平和の大切さを伝えることができました。会場内に設置した折り鶴コーナーでは、メンバーのメッセージに共感した方々が、たくさん折り鶴を折ってくださいました。

さらに、今年度は、ピースクラブとして初めて、長崎市で開催された青少年ピースフォーラムに参加しました。このフォーラムは、八月九日に開催される長崎の平和祈念式典に参加するために長崎市を訪れる全国の自治体の平和使節団が一堂に会して、平和の尊厳について考える平和学習会であり、長崎市の青少年ピースボランティア（十五歳から三十歳）が運営しています。広島から長崎までバスで片道六時間というハードな日程でしたが、全国の青少年と一緒に平和宣言を作成し、長崎市の青

少年の平和への取組を学ぶことができ、大変充実した学習会になりました。

このピースクラブの参加者からは「今回の経験・勉強を生かして内外に広く発信していきたい」「来年は自分たちが広島でピースフォーラムを開催したい」「広島の中高校生のパワーで、世界を巻き込んでいく活動をしていきたい」などの感想が寄せられ、平和活動への関心は大いに高まりました。

平和学習セット を新規貸出

（平和記念資料館啓発担当）

広島平和記念資料館では、原爆展の開催や平和学習に活用できるポスター・パネルや被爆資料等を全国の学校や平和団体、自治体等の非営利団体に貸出しています。

として作成したもので、小学生向けと中・高校生向けの二種類があります。内容や利用方法は次のとおりです。

- ① 平和学習セットの内容
 - ・プレゼンテーション用データ及びシナリオ
 - ・被爆資料（被爆した瓦）
 - ・被爆体験者の体験を収録したDVD「ヒロシマの証言」
 - ・広島平和記念資料館紹介DVD「ヒロシマから未来へ」
- ② 申込み方法

学校から平和記念資料館啓発担当に電話でお申し込みください。往復の送料は申込者の負担となります。

☎（082）541・5544
（受付専用）

（平和記念資料館啓発担当）



平和学習セット

ピースボランティア 新規登録三十六名 活動開始

ヒロシマ・ピース・ボランティア事業は、幅広い世代から募集した市民ボランティアが、平和記念資料館の展示や平和記念公園内の慰霊碑等の解説を行うことを通じて、被爆体験継承の推進を図るものです。

今年度は、九月一日、約半年間の研修を終えた三十六名が新たに加わり、合計二百五名（実動人数）になりました。研修では原爆被害の概要を学び、被爆者の講話を聴き、展示解説実習等を行いました。

ボランティアの皆さんは、来館者の方から寄せられる声に励まされながら、「核兵器廃絶と世界平和のために『ヒロシマ』を伝えたい」という思いを胸に活動しています。ご来館の際は、ぜひご利用ください。

【お問い合わせ】

平和記念資料館 啓発担当
☎（082）541・5544

英語で伝えよう ヒロシマセミナー

平和記念資料館では、原爆被害に関する基礎知識と英語による表現方法について学ぶ「英語で伝えようヒロシマセミナー」を実施しています。

平成二十三年五月二十九日(日)と七月二十四日(日)に実施した「一般の部」には、海外渡航の予定や、ホームステイなどで外国人を受け入れる機会のある一般市民合わせて約百名が参加しました。

各回の前半部分では、米国出身の英語教員クレイグ・ネヴィットさんが、外国人からよく寄せられる質問に英語で簡潔に答える方法を説明しました。

五月の第一回セミナーの後半部分では、「平和のためのヒロシマ通訳者グループ」代表の小倉桂子くわいけいこさんに「世界に『ヒロシマ』を伝えるということ」というテーマでご講演いただきました。通訳者として御自身の体験をもとに、また、今後広島から

発信すべきメッセージなどについてお話いただきました。

七月の第二回セミナーの後半部分では、本財団のステイブン・リーパー理事長が、世界の核兵器の現状や核兵器禁止条約の締結を目指す国際的な機運の高まりについて講演しました。

また、留学予定の高校生を対象に五月二十八日(土)・六月十一日(土)・七月十六日(土)に実施した「高校生の部」には、合わせて約百名が参加しました。セミナーの参加者からは「知らないことの多さに気づかされた」「機会があれば海外で『ヒロシマ』を伝えたい」といった感想が寄せられました。

(平和記念資料館啓発担当)



5月29日「一般の部」小倉桂子さん講演の様子

ウェブ会議システムを利用した被爆体験証言を実施

平和記念資料館では、海外のより多くの人々に被爆の実相を伝え、核兵器廃絶に向けた国際世論を醸成じょうせいするため、海外と資料館とをインターネット回線で結ぶウェブ会議システムを利用した被爆体験証言を行っています。

この証言活動では、被爆者は、資料館でライブの配信画像により現地会場の様子を確認しながら被爆体験を語ります。一方、現地の参加者は、同様に画像で被爆者の様子や証言内容に関係するスライドを見ながら被爆者の話を聞き、その後、被爆者と参加者が質疑応答を行います。

平成二十三年度は、十二月までにアメリカ、イギリス、ロシアなど海外六カ国九都市で十一回実施しました。

十一月、イギリス・グラスゴー大学チャペルで実施した会に出席した同



ウェブ会議システムを利用した被爆体験証言の様子

大学の研究者から、現地主催者に宛てて「証言を聞いたことは自分にとって大変重大な経験ゆうげんになった。自らの経験を雄弁ゆうべんに語った証言者の、とてもバランス感覚のある物の見方に深い感銘かんめいを受けた」というメッセージが寄せられました。

この方法は、双方向通信ができる上、高齢の被爆体験証言者の体力的な負担を大幅に軽減でき、経費面でも効率的です。今後もウェブ会議システムを利用した被爆体験証言の実施に積極的に取り組んでいきます。

(平和記念資料館啓発担当)

被爆資料、原爆死没者の氏名・遺影、被爆体験記募集

被爆体験の 継承にご協力を

広島平和記念資料館と国立広島原爆死没者追悼平和祈念館は、被爆体験を継承するための貴重な資料の収集を行っています。

皆様のご協力をお願いします。

●被爆資料―被爆された時に身につけられていた衣服など、被爆の事実を直接ものがたる実物資料。

●氏名・遺影―原爆死没者の氏名・遺影(氏名のみ登録も可能)。

●被爆体験記―被爆者の体験記や、遺族・友人の追悼記など。

【お問い合わせ】

●被爆資料について―広島平和記念資料館 学芸担当

☎(082) 241・4004

●氏名・遺影、体験記について―国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

☎(082) 543・6271



「もうすぐ楽になるからね」/作者 加藤義典さん

絵が寄せられ、後に平和記念資料館に寄贈されました。平成十四年（二〇〇二年）には平和記念資料館、NHK広島放送局及び中国新聞が「原爆の絵」を募集し、千三百三十八点が寄せられました。その後も「原爆の絵」は描かれ続け、今もなお寄せられています。当館では、それらの中から毎年テーマを定め、作品を展示しています。

今回は「救援救護」をテーマに、「助けて!」、「救う」、「捜し求めて」、「学校で」、「道路や川土手にも」という五つのコーナーで、作者のこととともに四十六点の作品を紹介しています。壊滅した街には、生死のはざままで助けを求める人々、わが身を構わず救助をする人々、大切な人を探し求める人々の姿がありました。また、学校や電車通りなどには負傷者があふれ、そこでも多

くの人々が亡くなっていきまし。これらの絵には、それまでの日常を一変させられた人々の苦しみや悲しみが描かれています。絵を通して、原爆被害の実相をご理解いただき、被爆者の思いを感じていただければと思います。

■期間 平成二十四年十月まで
■会場 平和記念資料館東館
地下一階展示室（三）
【お問い合わせ】
平和記念資料館 学芸担当
☎（082）241・4004

市民が描いた原爆の絵

助けて!

原爆被災直後の救援救護

昭和四十九年（一九七四年）にNHK広島放送局に被爆者から寄せられた一枚の絵がきっかけとなり、同放送局の呼びかけで市民から二千二百二十五点の

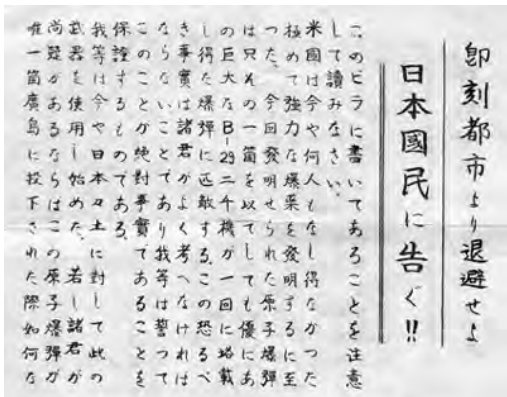


1キ口の川ぞいの道に1,000人/作者 若井激さん

収蔵資料展を開催中

宣伝ビラ 「日本国民に告ぐ」

投下の予告ビラ等について確認されているものではありません。
■期間 平成二十四年四月五日（木）まで
■展示している資料 宣伝ビラ七点（うち複製資料一点）、宣伝ビラが入っていた爆弾型ケース一点、その他写真などの関連資料
「収蔵資料の紹介」コーナーでは、平和記念資料館で収蔵している約二万一千点の資料の中から、半年ごとにテーマを定め、展示替えを行っています。
【お問い合わせ】
平和記念資料館 学芸担当
☎（082）241・4004



広島への原子爆弾投下後に作成されたビラ/寄贈 馬場常好氏



被爆体験聞き取りの様子

被爆者の「こころ」と「ことば」に触れてください 被爆体験記の執筆を お手伝いしています

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館では、被爆者の高齢化が進むなか、「被爆の記憶を体験記に残したいけど、自分ひとりでは文章にまとめられない」という方のために、被爆体験記執筆補助事業を行っています。

この事業は祈念館職員が自宅等に出向いて、被爆体験を聞き取り、体験記としてまとめるもので、平成十八年度から実施し、平成二十二年度までに六十二名の聞き取りを行いました。平成二十三年度は十名の申込みがあり、順次、被爆体験記を完成させ、館内で公開しています。ま

た、企画展や朗読会、ホームページ掲載、公的機関への提供等でも活用しています。

被爆者にとって、六十六年前の体験は昨日のこのように脳裏から離れることがなく、被爆当時の悲惨さを記憶の奥から絞り出すように語られます。皆さんにとって、今まで心の奥底に秘めていた、思い出したくない体験ですが、後世に残すことが自分の使命だと思ふようになり、応募された方ばかりです。

当館では、この事業によるものを含め、現在、約十三万編の被爆体験記を公開しています。ぜひ、ご来館いただき、被爆体験記を手にとり、被爆者の心に触れてみてください。

(原爆死没者追悼平和祈念館)

被爆証言を映像に記録

証言ビデオ収録を開始

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館では、貴重な被爆証言をできる限り多く記録に残し、後世に伝えていくために、国内(県外)在住及び在外被爆者の証言ビデオの制作を行っています。

「真つ黒になった人が肘と膝をついて伏せているのです。その下に赤ちゃんが両手をあげてお母さん助けてという格好で亡



証言ビデオ収録の様子

くなっているんです。ほんとうにショックでした。」(被爆した知り合いは)顔の肉と鼻柱から頬の肉全部なくなつて、まるで骸骨のような、奥のほうで目だけがすかに光っておりました。何て言ってもいいかわからなくて、大変な目に遭つたね、それだけ言うのが精いっぱいでした。」六十六年たつた今でも話すと涙が出るんですよ。本当にあのつらい思いを世界中の人に味わわせたくない。」これは、この度収録した証言の一部です。証言者は被爆時の状況のほか、被爆後の健康への不安、被爆者へのいわれのない差別、平和への強い願いをせつせつと語っています。

今年度は国内二十名、在外五名の予定で、現在、ビデオの収録作業を行っています。収録し

た映像は編集後、本年四月から当館の体験記閲覧室で公開します。また、制作した証言映像は平和学習用資料としての貸出やインターネットへ掲載するとともに、順次、英語、中国語、韓国・朝鮮語の吹替え版を作成する予定です。

祈念館では証言映像の閲覧のほかに、被爆体験記や関連図書を読むことができます。ぜひ、被爆者の「こころ」と「ことば」に触れてください。

(原爆死没者追悼平和祈念館)

子どもたちに語り伝えよう… 被爆体験記朗読会

被爆者やその家族が記した被爆体験記には、被爆のことを直接知る者のみが書きうる真実や心情が綴られ、読む者の胸を打ちます。

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館では、こうした体験記や原爆詩を読み語るることによって、幅広い人々と被爆者の記憶や思いを共有し、次の世代へと継承することを目的に、「被爆体験記朗読会」を開催しています。

修学旅行や平和学習で平和記念公園を訪れる小・中学生、高校生を対象に、祈念館だけでなく、宿泊先での朗読会も開催し

ています。また、広島市内及び近郊の学校等でも出前朗読会を開催しています。いずれの場合にも、祈念館に所属する朗読ボランティアを無料で派遣しています。参加校からは、「情景を想像しながら聞くことができ、胸に響いた。涙がでた」「戦争を知らない子どもたちに、戦争や原爆の悲惨さを伝えていく有効な手段になる」との声が寄せられています。

また、毎月第三日曜日には、午前十一時と午後二時三十分から、誰でも参加できる定期朗読会を祈念館地下一階研修室で開催しています。お気軽に当館までお問い合わせください。

【お問い合わせ】

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

☎ (082) 543・6271



被爆体験記朗読会の様子

「姉妹・友好都市の日」 記念イベント 市民が海外 文化を堪能

広島市は海外の姉妹・友好都市提携六都市に対し、市民の方々に一層親しみと理解を深めていただくため、平成十三年から、都市ごとに「姉妹・友好都市の日」を設けて記念イベントを開催しています。平成十五年度からは、この事業を本財団が市から受託して実施しています。各イベントの進行役はヒロシマ・メッセンジャーが務めました。

モントリオールの日

七月二十四日(日)、広島市留学生会館で記念イベントを開催しました。主催―平成二十三年度モントリオールの日実行委員会。

まず来場者は、スモークミー

トや克蘭ベリージュースなどのモントリオールグルメの試食したつみに舌鼓を打ちました。セレモニーの後、モントリオール市から来ている英語指導助手がモントリオール市の紹介を行いました。

記念コンサートは、カナダ出身の歌手ケリー・ペティットさんが、気さくに来場者へ流暢な日本語で語りかけ、リクエスト曲に応じるなど、会場は盛り上がりました。

イベントの最後には、メープルシロップやケベック州の写真集、スモークミートなどの特産品が当たるお楽しみ抽選会を行いました。このほか、モントリオール市



熱唱するケリー・ペティットさん



お楽しみ抽選会の様子

民からの東日本大震災復興応援メッセーじやカナダ特産品の展示、「シルク・ドゥ・ソレイユ」の「クーズ」の紹介、そして情報誌ココ・モントリオール「モントリオールの日」特集号の配付を行いました。

約三百人の来場者は、楽しみながらモントリオールやカナダへの理解を深めていました。

ボルゴグラードの日

九月十一日(日)、広島市留学生会館で記念イベントを開催しました。主催―平成二十三年度ボルゴグラードの日実行委員会。

まず来場者は、ロシア名物料理のボルシチやピロシキ、ロシ

アンチコロレートしらかほの試食、そしてグルジアワイン、ロシアンテイー(ジャムを添えた紅茶)、白樺ジュースの試飲を楽しみました。めずらしい料理や飲み物でしたが、多くの方に大変おいしかったと言っていました。

ホールでは、セレモニーに続いて、小学生によるロシアでのホームステイ体験の発表がありました。写真やわかりやすい画像を交えた発表で、大変好評でした。その後、広島在住のロシア人によるロシア語講座や、ロシア流じゃんけん大会を行いました。来場者全員が参加し、大いに盛り上がりました。

続くロシア音楽コンサートでは、三組の演奏家達がさまざまなロシアの楽曲を披露しました。最初にピアノ演奏と合唱団による合唱、続いてさまざまな楽器によるアンサンブル、そしてマリンバ打楽器によるアンサンブルがありました。異なる音色で奏でられる多様なロシア音楽に会場は拍手喝采かっさいでした。最後は皆でロシア民謡の「トロイカ」を歌って楽しみました。

このほかロシア・ボルゴグラ

ードの紹介展示コーナーもあり、ロシアの民芸品や絵本・ポスターなどの展示、またボルゴグラード市の子供たちが描いた風景画や交流の様子の写真などを展示しました。

またイベント前日には、関連行事としてロシア人講師によるロシア料理教室を開催し、三十人余が参加しました。皆でボルシチ作りに挑戦し、最後は出来上がったボルシチをおいしくいただきました。

前日の料理教室と合わせて約三百二十人が訪れ、イベントを通して、ボルゴグラードやロシアへの関心や理解を深めていきました。

(国際交流・協力課)



ロシア流じゃんけん大会の様子

留学生生活支援セミナー 防災センター訪問

広島市留学生学生会館では、今年度の留学生生活支援セミナーを年三回シリーズで行っています。その第二回目「留学生のための防災センター訪問」を六月二十五日（土）に開催しました。

「防災センター訪問」では、昨年に引き続き広島市南消防署のご協力での送迎を行っていただき、当館居住の四カ国一地域十二名の留学生とその家族、国際交流員、職員の計十四名が参加しました。



震度7の揺れを体感



消火器の噴射を体験

近の全国および広島市の火災件数、火災原因について説明を受けました。たばこ、放火等が主な火災の原因ということでした。また、火災時の避難方法と心得、日本の地震について等の映像による説明を受けました。その後、身近にある殺虫剤、ヘアースプレー等の缶にLPガスが使われていること、その危険性や特性について、また、その他のガスの危険性についても実験を交えながら説明を受けました。

座学の後、体験型の学習を行います。避難訓練、地震体験、消火器の噴射体験、通報練習を行いました。また、天ぷら油火災の消火を見学しました。

避難訓練では、家屋内で煙に遭遇した場合に、なるべく姿勢を低くし、口元をハンカチ等で覆って壁伝いに避難する訓練や、避難梯子を伝って下りる訓練を行いました。防災センターの担当者から、平素より自宅の避難路について確認しておくようにとの指導を受けました。

次に、地震に遭った場合の対処法を学びました。参加者全員が震度七の揺れを体感しました。

以前は、地震の際には火の元確認が第一とされていましたが、現在では、家具や建物の倒壊によるけがを防ぐことが第一となる行動だと教えてもらいました。その後、消火器の仕組みを習い、参加者の殆どが実際に噴射を体験しました。「火事だ」と大きく叫び、同時に火元に向けて噴射を行いました。

最後に、一九番の通報練習を行いました。片言の日本語でも通じることが確認できました。参加者からは「とても勉強になった」、「説明がわかりやすかったし、様々な体験ができてよかった」との感想がありました。

(広島市留学生学生会館)

ひろしま奨学金決定書交付式

本財団では、ひろしま奨学金「学生」に決定し、七月七日（木）、金事業として、広島市内の広島市留学生会館研修室において、月額三万円の奨学金を一年間という期間を定めて支給しています。

式には、来賓として「ひろしま留学生基金」へ多額の寄付を頂いた五団体六名に参加する予定です。

今年度も、広島市内の十大学生に学ぶ三十名（三カ国）の奨学金を「ひろしま奨学金」が常日頃からお世話になっている大学関係者（九大学九名）に出席いただきました。さらに、奨学金が決定した。



奨学生決定書交付式での記念撮影

式後は、場所をホールへ移して、来賓の方々や大学関係者の方々の交流会を開催し、奨学生全員がそれぞれ自己紹介と、広島島の印象や将来の希望、奨学金決定の感謝の気持ち

第二回 留学生と市民とのふれあいサマーコンサート

八月二十七日（土）、十四時より、広島市留学生会館二階ホールにおいて、留学生と市民が音楽で交流を図る「留学生と市民とのふれあいサマーコンサート」を開催しました。

このコンサートには、留学生・

その他外国人をあわせて十二カ国・地域の四十名と市民の皆さん百六十名が参加し、楽しいひとときをすごしました。

中国出身の留学生三名が日本語で司会をつとめ、一生懸命な



崇徳高等学校グリーンクラブの男性合唱



サクソ、パーカッション、フルートのセッション

進行ぶりに会場全体が温かい雰囲気になりました。

前半では、全国のコンクールで数々の入賞歴のある崇徳高等学校グリーンクラブ三十五名が、素晴らしい男性合唱を披露しました。「見上げてごらん夜の星を」「ソーラン節」「黒人霊歌」「ふるさと」等を息もびつたりとアカペラで披露しました。力強く美しい歌声は、留学生や市民の方々の胸に深く響きました。最後の一曲「翼をください」では、エリザベト音楽大学大学院のフィリピン人留学生のピアノ伴奏と共演し、会場は拍手喝さいでした。

また、インドネシア人留学生男女九名が伝統舞踊「千手の踊り」を披露しました。正座をして横に並び、手を繋ぎながらお互いの腕の下を潜り合う複雑な動きの踊りでした。数週間前から、膝が痛くなるまで正座で練習をし、男女共に同じ衣装を揃える等、留学生の熱のこもった伝統芸能の発表に、観客一同感動しました。

後半は、エリザベト音楽大学大学院在籍のフィリピン出身の留学生三名が、各専門の楽器、サクソ、フルート、パーカッションで六曲披露しました。ゲストに英国人のベーシストとメキシコ人のピアニストを迎え、映画のテーマ曲「いそしぎ」や、アップテンポな曲「ティコティコ」などを演奏しました。プロ並みの演奏に拍手をしながら、会場は大いに盛り上がりました。参加者から「力強いリズムで大変迫力があつた。またグリーンクラブの歌声に癒された。留学生と楽しい時間を共有できた」という声がよせられました。

(広島市留学生会館)

などをスピーチしました。

また、エリザベト音楽大学のフィリピン人留学生アルキメデスさんのサキソフォン演奏を楽しむなど、和やかな雰囲気の中で交流を深めました。市民の皆様方には、今後とも、私費留学生が経済的問題に影響されることなく、安心して学業に専念し、広島市と

の国際交流の架け橋になれるよう、引き続き「ひろしま留学生基金」へ温かいご支援、ご協力をお願い申し上げます。【ひろしま留学生基金へのお問合せ】 広島平和文化センター国際部 留学生会館 ☎(082)568・5931

東日本大震災への募金について

本財団では、東日本大震災にみまわれ亡くなられた皆様のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された皆様への義援金のための募金箱を、

募金箱は平成二十四年三月三十一日まで設置しております。引き続き皆様のご協力をお願いいたします。

(総務課)

平和記念資料館、国際会議場留学生会館、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館に設置し、皆様のご協力をお願いします。平成二十三年十月三十一日までにお預かりした御芳志は九十四万五千九百十四円となっております。日本赤十字社を通じて被災地にお送りしています。



平和記念資料館 総合案内に設置された募金箱

留学生による平和フォーラム 恒久平和を目指して

「ヒロシマ」を留学の地に選んだ留学生に、様々な形で原爆投下の実相、被害を伝えることにより、原爆を過去の問題ではなく現在、未来の問題として捉え、世界恒久平和を目指して行動する若者を育成するため、「留



映画「運命の背中」の説明に聞き入る参加者のみなさん



学生による平和フォーラム」を七月三十日(土)と八月六日(土)の二回にわたり開催しました。二日間で延べ二百三十六名(うち留学生等六十七名)が参加しました。

映像から平和を考える

一回目は、出山知樹監督

による自主制作映画「運命の背中」上映会(英語字幕付き)を行いました。今回

は新たな試みとして、参加者を留学生に限らず、広島市民の皆さんも対象としてフォーラムを開催しました。

これは、国境を越え平和について取組んで行くにあたり、共に考える場を提供することが、ヒロシマへの理解を深めるとともに世界恒久平和を目指すことにつながるの考えからです。

「運命の背中」は、広島市に原爆が投下される「前」、そして投下された「後」を、一組の夫婦が力強く生き抜いていく姿を描いた作品です。上映会の後、制作プロデューサーの出山ひさ子さんから、メイキングのスクリーンを見ながら制作段階での苦労話等を聞きました。また、出山監督のビデオメッセージの上映も行いました。

その後、意見交換や質疑応答を行った際には、市民の方から積極的な意見等が出ましたが、残念ながら留学生からは、あまり意見が出ませんでした。

しかしながら、留学生に限定することなく市民の皆さんに参加して頂いた今回はじめての試みで、当初予定していた会場だけでは参加者が収まりきらず、別会場も使用するほどの反響を得たことにより、市民の皆さんが平和について高い関心を持っておられることや、「ヒロシマ

の心」を伝えていくこととする強い気持ちを感じられました。映画の上映中には、涙を流している方も見受けられました。

留学生達はレポートの中で、映画を見たことについて、「『ヒロシマ』について、より理解することができた。」「平和の大切さを知った。」「といった感想を寄せています。時として、言葉より映像で平和を訴えることができる」と知ったフォーラムとなりました。

平和記念式典参列

「ヒロシマの地」に毎年めぐってくる八月六日の広島平和記念日に、留学生たちが平和記念式典に参列しました。今回初めて参列する留学生、毎年参列する留学生、それぞれが、式典会場の厳かな雰囲気と年配の参加者の折るお姿に、少し緊張した面持ちでした。



平和記念式典参列の様子

留学生たちは、この式典に参列したことにより、平和を強く意識し、年々被爆者の方々が高齢化する中で「ヒロシマの心」を継承していくことの大切さを理解した様子でした。

今後、人種・性別を問わず、平和を願う一人ひとりが被爆の実相を継承していかなければならない中で、留学生達に、世界の平和について考え、行動する人間になってもうため、引き続き事業を行って行きます。

(広島市留学生会館)



プロフィール

〔つばい すなお〕

大正14年（1925年）生まれ。旧制官立広島工業専門学校（現在の広島大学工学部）の学生だった20歳の時に被爆。元教諭で、昭和61年（1986年）に広島市立城南中学校長を退任後、被爆者運動に加わり、国内外で被爆体験講話等を通じて核兵器廃絶と世界平和を訴えている。日本原水爆被害者団体協議会 代表委員、広島県原爆被害者団体協議会 理事長、広島平和文化センター評議員。平成23年（2011年）谷本清平和賞を受賞。

“平和について思う”

老馬の智を忘れまい

広島県原爆被害者団体協議会 理事長

坪井 直

被爆の体験

今から六十六年前の八月六日、二十歳の学生だった私は爆心地より約一キロメートルの市役所付近の路上で被爆しました。突き刺すような銀白の閃光を感じながら、約十メートル飛ばされ意識を失いました。約十分後に気がついた時、上・下衣とも半ば焼失し、顔面は無論、全身が火傷で、耳たぶはちぎれぶらさがり、両唇も腫れあがっていました。衣服の燃えるのを払いながら、半裸・半ズボンで火の海と化した街中を脱出の当てもなく、さ迷い続けました。

瀕死状態の私は終戦の記憶が一切ありません。翌年の夏になつてやつと、よちよち歩きができるようになりました。その後、三度の危篤状態を含め十二回の入院を繰り返しましたが、まさに九死に一生を得ました。

現在は慢性再生不良貧血で悩み、二つめのガンで苦しみ、狭心症に替かされています。そのため二週間に一度、点滴注射が必要なのです。しかも、精神的な不安・苦痛は自身だけに終りません。子や孫にまで及ぶ心配で居ても立ってもいられません。心・身・暮らしの破壊に、心の底から義憤を感じます。

現在では慢性再生不良貧血で悩み、二つめのガンで苦しみ、狭心症に替かされています。そのため二週間に一度、点滴注射が必要なのです。しかも、精神的な不安・苦痛は自身だけに終りません。子や孫にまで及ぶ心配で居ても立ってもいられません。心・身・暮らしの破壊に、心の底から義憤を感じます。

核兵器廃絶への活動

被爆体験を原点として、被爆者の一人として、核兵器廃絶の悲願達成に努力を続けています。

国内での被爆の実相普及のため、小・中・高校生への講話は勿論のこと、市内を始め他府県での成人者への集会に参加し、平和への訴えを続けており、そのために愚者の身を鞭打っています。

外国での活動は、ヨーロッパの国々を始め、アフリカ、中東・東南・北東のアジア（北朝鮮を含む）や八度目のアメリカ等に及びます。

また、二〇一〇年五月のNP T再検討会議には、被爆者五十名が渡米し、国連内での「原爆展」や「被爆体験証言活動」等で核兵器廃絶と不戦の世界建設を訴えたものです。私も同行しました。



福島原発問題等について、松井広島市長（前列右）と会談（2011年6月）

核についての諸問題解決策が、米・ロ中心から国連の諸機関に移行し始めたのが喜ばしい。

弱体化がますます進んでいます。しかし、恨み、憎しみ、報復の気持ちに乗越え、人類の幸せ、世界の平和のため、緊要事として核兵器廃絶の道をまっしぐらに歩んでいます。

人類は愚かではありません。国境を無くし、民族・人種を人間にまとめ、政治・経済の体制が和合され、教育・宗教に光明が見出され、香り高い文化に、真の平和が保障されます。

感情による対話では戦争を避ける事はできず、理性・英知による対話でこそ平和が約束されます。

核兵器の最後の一発が無くなる日まで、その目をこの目で見るまで、皆さんと共に頑張りぬきたいと思えます。

私たちは、何時如何なることが有っても決して諦めてはなりません。

Never give up!

（平成二十三年十一月寄稿）

“ヒロシマの心”を発信する人々

ふれあいの広島発見 ～広島市観光ボランティアガイド～

広島市観光ボランティアガイド協会 会長

谷口和昭さん インタビュー



平和記念公園で修学旅行生のガイドをする谷口さん (左から2番目)

世界文化遺産の原爆ドームをはじめとして名所の多い広島市には、年間一千万人を超える観光客が訪れ、観光をお手伝いするガイド団体が多数活動しています。今回はその中から広島市観光ボランティアガイド協会をご紹介します。会長の谷口和昭さんにお話を伺いました。

協会の設立について教えてください

設立は二〇〇〇年(平成十二年)です。私は設立メンバーではないので詳しくないのですが、広島市の観光振興アクションプランの一環として、市民レベルで「観光・交流」を促進するための提言を受けて、当時の広島

市観光協会(現公益財団法人広島観光コンベンションビューロー)が広島市観光ボランティアガイド養成講座を立ちあげ、その修了生によって広島市観光ボランティアガイド協会が設立されました。設立時には広島市や関係各所と連日の打ち合わせが行われ、ご支援ご協力を受けながらの設立だったそうです。

参加のきっかけは

私の場合は、退職後何かやりたいと、福祉関係など色々な資格を取って活動してきましたが、様々な人と話をする中で、自分が住む広島市の歴史を学びたいと思いつき、養成講座に参加して、修了後にこの協会に入りました。人前で話をするのが苦手だった私ですが、結局、多くの人と関わるこの活動を一番長く続けて

いるのは、ガイド活動が少しずつ私を変えてくれたのだと思います。他の会員の方は、きっかけは様々ですが、みんな「何かやりたい」と探す中で、広島市の広報紙「市民と市政」の養成講座受講者募集を見て参加された方が多いようです。

活動内容を教えてください

現在は平和記念公園、縮景園、広島城、旧日本銀行広島支店などでガイドをしています。協会の事務所に申込みがあると、係の者が受付の返事をし、予定表に記入します。会員は予定表を見て、その時間に活動できるようならガイドに立候補します。立候補者がいない場合は、会員の連絡網で対応できる人を探します。ガイドの内容は養成講座で学んだことを中心に、自分で勉強したことも話します。ガイドは個人の技量によるところが大きいので、会員は資料や情報を共有しながら、入会後も勉強を続けています。

これからの活動について

ガイドの申込みは年々増えており、特に申込みの多い十月、十一月の修学旅行シーズンには、大口の申込みに対応できずにお

断りすることが多く、大変残念に思っています。出来るだけ対応していく方法を模索しているところです。

平和記念公園をガイドする場合は楽しい話ではありませんが、観光客の方に喜んでいただくのが私達ガイドの喜びですから、これからも多くの出会いを楽しみにして続けていきたいと思

ます。

どうもありがとうございました
(平成二十三年十一月十五日取材)

広島市観光ボランティアガイド協会(ひろしま情報a-ネット)
<http://www.a-netshimnacity.hiroshima.jp/www/contents/1019817360600/index.html>

元広島平和記念資料館長

高橋昭博さんを偲ぶ



昨年十一月二日、被爆者で元広島平和記念資料館長の高橋昭博さんが逝去されました。享年八十歳でした。

高橋さんは旧制中学の二年生だった十四歳の時、爆心地から一・四キロメートルの校庭で被爆。数々の後遺障害に苦しみながらも、昭和二十六年から広島市職員として勤務し、昭和五十四年に平和記念資料館長に就任、昭和五十八年に広島平和文化センター事業部長に就任し、広島市の平

和行政に深く携わってこられました。

また、被爆後十年を迎えた広島で開催された第一回原水爆禁止世界大会で初めて世界に向けて被爆体験証言を行い、その後も国内外で証言活動を行いながら、粘り強く核兵器廃絶を訴えられました。昭和四十六年から平和記念公園を訪れる修学旅行生らに被爆体験を語る「語り部」の中心となつて活動され、被爆体験の継承に力を尽くされました。高橋さんのご生前のご功績を偲び、心よりご冥福をお祈りいたします。